

再生

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

わたくしには何も出来ませんが、

ただ人さまの偉さと及び難しさを感じる点では、

あえて人後におちないつもりです。

森信三先生一語千鈞より

第0066号

2022. 2月号

令和四年

実践人福岡仁風読書会

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



現代における孝の哲理

森 信三先生 講述

— マナコを閉じて親の祈り心を —

十五 孝はついに自己超克の一路

私心を超える

現代の若い皆さん方に対して、「孝の哲理」についてお話し申すということとは、実は最初からたいへん至難の事を予想していたことゆえ、今こうしてやっと最終講まで辿りついて感慨のただならぬものを覚えるのであります。

ところで今更ながら思いますのは、「真理」の伝達ということが如何に難しいかと言つてあります。とりわけ生きた心理のうちでも、最根源的な「孝」の哲理について説くことは、そこには「論理以上」のものがあるだけに「孝」な事でありませぬ。ついでに誤解のないために申しますが、「孝」で「論理以上」と申すのは深いのちの真実は、単なる論理によつて、とつては割り切れないと云つては、

同時に「この難しさの消息については、すでに中江藤樹先生もその「翁問答」において、

人間千々よろずの迷い、みな私(私心)よりおこれり。わたくしは我が身を、わが物と思うより起れり。孝はその私(私心・我)をやぶりする主人公なるゆえに、孝徳の本然を、さとり得ざるは、博学多才なりとも、真実の「儒者」にあらず。もして愚不肖は禽獸にちかき人なるべし。と書いていられます。われわれ人間は、この私すなわち私利私欲が中心となっているゆえ、内に孝徳の靈宝が宿つていても、その光を発し難いといつては、

実践人福岡仁風読書会 第61回 12月4日(土)

場所：福岡市博多区大井2丁目 大井中央公園にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

つまり、自己中心的な立場からは、「真理」の明德も暗雲に閉ざされて、その靈光を仰ぐことが出来ないというのであります。ですから言いかえれば、自己中心主義を超える、すなわちを己我の超克こそ、真理体得の要道であるといふことでありませぬ。恩師西晋一郎先生もこの間の消息について、次のように説いていられます。

親の心はとかく本能的恩愛の形で兒子を養育する所から、欲愛に陥り易く、己れの子を私するといふ傾きあるをまぬかれない。故に人間の教は、親の子を愛することとせずして、子の親に孝なるを以てするのである。孝心は恩愛ではなく感恩からの心であつて、人間が私心を超える第一歩は実に此の人間普遍の赤子愛敬の心からである。

このように、私心を超えることが、孝徳の体得につながるのみならず、孝徳の実践が実は私心を超える第一歩であり、この二つは実は相即不離一体なのであります。

小学校教師の喜びと誇り

私も小学校教師は、人の一生を左右する大事な仕事に携わっているのである。小学校時代に、あの先生に教わったので、私は発奮し、私は教訓を守り、私は先生を見習って、それから私は努力を続けてこんなになりましたというケースは世の中には数知れないほど多い。又、その逆に、受持の先生とウマが合わずに伸びべき芽を伸ばしきれず、甚しい者は、世の中から脱落していく者のあることも否めない。

それほど大切な仕事であるのに、余りにも世間は無頓着ではなからうか。関心があると言っても、学科の成績や入学試験の事ばかりで、それは場合によってはかえって人を害している今日のように思う。テスト主義教育がどんなに人間をいためているか、思い半過ぎるものがある。

小学教師になるよりほかに道のなかつた私は、教師の喜びと誇りを求め続けた。小学教師は俸給も安く社会的地位も低く、おまけに官庁会社のような昇進の道もない。ともすれば、襲って来るものは、絶望と悲哀と卑下感である。そうしたじめじめした心境から、どうしてこの大事な教育に命をかける勇猛心が起ろうか。私は、地位も名誉も財産も縁のうすいものとあきらめなければならぬなら、残るものは何であろうかと考えた。

それは仕事だ。人の一生を左右できる仕事ではないか。この子たちに命をかけよう。この子たちが成長して、三十年たち、四十年たった頃

あの時のおかげだ。」と一人でも二人でも思つて呉れるほどの仕事をしてみたい。いや子どもたちにわからなくても、りっぱに人並に成長して呉ればそれだけでもよい。子供の未来に望みをかけてやってみようと思つた。三十七年間やってきたことは、今までに書いたようなものであつた。或る時は迷い、或る時は悩み、又或る時は怠けた。又或る時は誤つたこともしたろう。今にして思えば、足りなかつたこと、恥ずかしいことがいっぱいである。

それでも、非行に陥ろうとする子も救うことができた。無口も、ドモリも、おねしようもなおつた。学習の遅れた子も自信をとり戻すこともかなりあつた。展覧会にも入賞して人生に自信を持って進んで行った子もあつた。そんなことも今は楽しい思い出となつた。

私は昭和三十八年九月、全国校長大会に北海道に行った。汽車は特急の専務車掌をしている原田君が万事至れり尽くせり世話してくれた。東京一泊では北原君、平山君が銀座のまん中のキャバレーで大歓迎をして呉れた。北海道では赤平で岡部明君が前日から探し求めて待っていて呉れた。稚内の最北端では阿波君が涙を流して案内して呉れた。同行の小江校長先生が、私の教え子がこんなにも親切に私を大事にして呉れる姿を見られて、

「先生は良い子どもを持っていますね。」

と感心して言われた。人はたいい旅行づかたれでやせて帰って来るのに、私は逆に5kgも肥って帰ってきた。私はこの最大の歓迎に感激するとともに、それぞれすばらしい活躍をしていることに教師としての喜びと誇りを味つた。

それと同様に、地元で活躍している子どもたちは、地道な農家の中心人物が多く、役場、農協、共済組合、銀行等の中枢機関にも指導的地位にあつて、時折の同窓会に招待受けるは申すに及ばず、一身上のこと一家のことに至るまで世話をしていただいている。お世話を戴く喜びや有り難さもさることながら、学校卒業後も一致協力して、一家の繁栄、町の発展のために尽くしている姿を見ることが、小学教師としての、無上の喜びであり誇りであり、この道に一生をかけた甲斐も十分あつたのではないかと思つた。これから、彼等も準備期も終えて、愈々すばらしい一家を創り上げるだろうし、私はまた私で、幼い頃の彼らのイメーヂを決してこわすことのないよう心掛けて生きて行きたいと思つた。

第43回 福岡空港ミليون清掃 1月1日(土曜日) 2名参加

福岡清爽クラブがお世話をさせていただく「博多駅早朝清掃」も今年で29年目となりました。

ここまで継続できていることも、多くの皆様の支えがあってこそでございます。

始まって以来、毎月8日に一度も欠かさずことなく継続されてきたこの素晴らしい文化を、今後も皆様と共に歩みを進めて参りたいと思います。

本年も皆様とお掃除ご一緒できることを楽しみに活動して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

代表世話人 井 啓充



2022/01/01



「福岡清爽クラブ」
LINE公式アカウントはじめました！

お掃除の様子や活動予定などを配信させていただきます！

よろしければ
QRコードからご登録
お願い致します。



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第338回
博多駅 早朝清掃

毎月**8**日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



第338回 博多駅早朝清掃

29年目・・・

1月8日(土曜日)

67名参加



本日は令和4年最初のお掃除となり、久しぶりにお掃除仲間の皆さまとお会いできて良かったです。お掃除からの学びもたくさんありますが、このように皆さまとのご縁が繋がっていくことに有り難みを感じます。お掃除を通して、心が磨かれ、街が綺麗になり、また人々の繋がりも増えていくことが大きな魅力だと改めて感じました。本日もありがとうございました。

HIROMITSU



博多駅 副駅長



「太志塾」の大島理事(右)と「一風堂」の河原社長(左)も参加してくれました！

本日は土曜日でしたので、娘と共に参加させていただきました。
いつも娘には前日に確認しています。
今回は気持ち良く「行く！」との返事。
娘にたくさんの方がお掃除をしている姿を見せることができ、うれしく有り難い気持ちです。
また参加させていただきます。

TSURUGA

新年明けましておめでとうございます。
3連休の初日でもある土曜日の早朝、通勤や通学姿はほとんどみられません。行き交う人もまばらです、、、。ですがそんな状況のなか、最高の感動で始まった博多駅清掃活動でした！！なんと、精華女子高等学校の子どもたちが何人も来てくれたのです♡休みの日なのに清掃活動のために朝早く起き、電車やバスに乗って、わざわざ来てくれたのです！なんて素敵な子供たちでしょう♡子供たちが育てて花を咲かせ、次の種を安心して撒くことのできる土壌を作っておくことは、今の大人の責任だと思います。
子供たちの姿に感動し、明るい未来を感じ、自分の中に意欲が湧く時間となりました(^^)本年もどうぞ宜しくお願い致します。

MARIMARI



耕作放棄地再生と清爽活動in酒殿2020.12.29~

1月15日(土曜日)



参加メンバーの姪っ子さんが、お母さんと一緒に北海道からやってきました。7歳の愛らしい女の子です。夜明け前の寒い中、嫌がる様子もなく純粋なひとみでみんなの様子をじっと見ていました。

狭いトイレの中で、8人の大人が洗面台・壁や天井・トイレの便器を楽しそうに磨いている姿を見て、何を感じてくれたでしょう?!

子供はいつも大人を見ています。素直でまっすぐなひとみには、嘘やごまかしは、一切通用しません!

ということは、背中をみられている大人は、常に『凡事徹底』に徹することが必要なのかもしれません(๑>◡<)簡単にできることではありませんが、意識していこうと思いました♪



冷泉公園早朝清掃

1月22日(土曜日) 第123回(再開)



今回初めて冷泉公園のトイレ掃除をさせていただきました。私は初めてさせていただくトイレだったのでワクワクした気持ちで取り組みました。広いトイレでしたが山本さんがリーダーシップをとって手順を教えてくださいましたのでとてもやりやすかったです。場所が変わってもその場に応じて行動することが大切だとまなばせていただきました。

MEGUMI



コロナで約1年半休止していた冷泉公園のトイレ掃除を再開致しました。

トイレによって形や大きさも違うので、使う道具や手順も工夫しながら取り組みました。私にとっては初めての冷泉公園だったので、冷泉公園用に作ったホースがあるのは驚きでした。

基本は同じですが、その場所に合わせて掃除の仕方を柔軟に変えていくことが大切だと感じました。

HIROMITSU



令和を巡る早朝清掃／戒壇院 2020.1.25～

1月29日(土曜日) 第25回



本日は芝生の中の草取りをさせていただきました。

一見早く終わりそうに見えましたが、芝生の中から小さな草が生えており、芝生と見極めながら作業をすると意外と時間が掛かりました。

想像ではなく、何事もやってみるということが大事だなと思いました。

掃除後は戒壇院さんのお寺の中を見せていただきました。

由緒あるお寺をお掃除させていただいていることを改めて感じ、お掃除を通しての貴重なご縁を有り難く思いました。

HIROMITSU



本日は芝生の草取りをさせていただきました。芝生の中から生えている小さな草を取るのには細かい作業で、ついこのくらいいいかと思ってしまうようになりました。しかし、小さなことこそ丁寧に徹底してすることが大切だと学ばせていただきました。 MEGUMI

株式会社SRC掃除研修

トイレ掃除(毎週金曜日)

1月7、14、21、28日(金曜日)

指導して頂く掃除に学ぶ会の指導無しで、社員4人で行いました。初めて社員だけの実践でしたが、前回までを振り返りながら最後までできました。やればできる！何事も、自信になりました。

(1/14 感想)

今日はN社員がトイレ掃除の初リーダーを行い、全員で協力して行いました！

リーダーになると全体を見渡して行うので、また違った視点を養うことができます。

初めてのリーダーで分からないこともありましたが、今までの指導を思い出してやり遂げました！

(1/21 感想)



生命の林と人生 六三、木の復権 V

022-2

光然京カルデラ

対談 進行 高瀬 町長 宮崎 建築家 葉

宮崎—いろいろな場面でも、若者達が真先に参加し、引っ張ってくれる。建築は白紙委任が良いと言う議論と同じで、人材を活かすのも、やはり任せないと駄目。任せるのはその人の個性や能力を信頼して任せるのだから、口は出さない。すると、その人なりのものが出てくるし、私がやったのと違う広がりが出てくる。人が新たに展開を作っていくてくれる。イベントなどで私が言うのは、例えばクラシックにしても、わかるかどうかより、多彩なイベントが行われていることが大切なんだ、ということ。それによって町の雰囲気が出ていく。そういふものが繰り返して行われている町で育った子ども達は私たちにとってクラシックとかジャズとは感じ方が違ってくるのではなからうか。同じことが木造の建築にも言え、私達と違う感性を磨きながら育っていく。言葉で教えるより、体で感じるのが大事です。

自由な発想と行動があれば
葉—この次が難しいですね。そんなに人を魅きつける建築をつくり続ける事は容易ではない。宮崎—最終的には建築ではない。ヒトですね。魅力的な人がいて、自由な発想と行動が取れる土壌があれば、その人達がまた、新しいものをつくっていくてくれる。

バロック音楽はその典型で、小国の木造建築は古楽器奏者達のメッカになっていきます。音量が小さく、デリケートなものですから、独特の音響があり、大きすぎない小国の木造建築は最適、ということらしい。そこで練習をし、発表会をする。それに端を発し、今度は建築の森川さんのように小国に住もうという人が現れた。だからそういう人と風土を大切に育てていけば、ハードから端を発し、それとは関係なく展開していくと思う。

小国はまだ木造建築だけで、と言われるようでは駄目です。

小国ドームには年間10万人がやってくるが、あれは見せ物ではないのだから10万人来なくなるとしても当たり前。子ども達のクラブ活動や町民のスポーツ活動に使い、たまにイベントを開く、というのが本来の目的だ。全部の建築に本来の目的があります。ですから、新しい建築で人を魅きつけてとは考えていない。

今こそフロンティアが

高瀬—最後に若い建築家達に一言ずつお願いします。
葉—ポストモダン、一種の閉塞状況から抜け出ようとするエネルギーだった。今それがどこへ向かっているかという、坪単価の高い石貼りやガラスを多用した建築だとか、全てがレベルアップした方向に向かっている。それに幻惑されそうになる。しかし建築家にとって、まだ人手に染まっていけないフロンティアが、手が差し伸べられるのを待っているような素材や構法、建物の在り方があるはずだ。決して空間を贅沢

に造ることがアイデンティティを作ることではない。私達は木構造に取り組んだ時、物凄く苦しみました。しかし、実現した時の喜びも大きかった。純粹にモノをつくる人間の喜びは何かという、困難を克服すること、それ以外にない。若い人達はあれはもう誰かがやった、みんなやり尽くされている、自分達のやり残されているものは何もない、などと思っているかもしれない。しかし、まだ可能性は無限にある。もし私に時間があれば竹を使いたいし、木だっって引っ張りに使ってみたい。その建築がエネルギーを持ちうるかどうか、愛着を得るかどうか、建築の命ではないでしょうか。

宮崎—日本だけでなく世界的な状況だが、新しい設計とか構法を自由に提案できる雰囲気がある。昔みたいにコスト一辺倒、機能性一辺倒ではない。自治体でもいい建築をつくって下さいという所が多い。ですから、挑戦できるチャンスはかなりある。その時代の中でチャンスを与えられたら、キチンと応えないと、また元に戻ってしまう。一般の人とのギャップもあるでしょう。一般の人達も固定概念だけで話すのではなく、設計者が提案するライフスタイルを一回やってみよう、というぐらいの気持ちを持つ必要がある。それを行政が持たせるように努力することも大事だと思います。

高瀬—どうもありがとうございました。
次回へ続く

一九九一年一〇月一日発行
発行所 (株)デルファイ研究所 取材 構成 一文
「木の文化」を創る人々熊本県小国の場合 高瀬隆三郎

二〇二二年一月一八日
広葉の林を育てる会 興膳丈治



	2月の活動予定表						3月の活動予定表					
日	5	5	8	12	19	26	5	5	8	12	19	26
曜	土	土	火	土	土	土	土	土	火	土	土	土
行事活動名	福岡空港ミリオン清掃 第44回	福岡実践人仁風読書会 62回	博多駅早朝清掃 第339回	JR酒殿駅早朝清掃 第14回	冷泉公園早朝清掃 第124回	令和を巡る早朝清掃 第26回	福岡空港ミリオン清掃 第45回	福岡実践人仁風読書会 63回	博多駅早朝清掃 第340回	JR酒殿駅早朝清掃 第15回	冷泉公園早朝清掃 第125回	令和を巡る早朝清掃 第27回
場所	福岡空港 周辺一万m	大井中央公園	博多駅博多口	JR香椎線 酒殿駅北口	博多区冷泉公園	福岡県太宰府市 戒壇院	福岡空港 周辺一万m	大井中央公園	博多駅博多口	JR香椎線 酒殿駅北口	博多区冷泉公園	福岡県太宰府市 戒壇院
開始時刻	6時	7時	6時15分	6時30分	6時30分	6時30分	6時	7時	6時15分	6時30分	6時30分	6時30分
運営団体	福岡清爽クラブ	福岡実践人	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ 楽農人耕作放棄地再生楽交	福岡清爽クラブ 株式会社SRC	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡実践人	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ 楽農人耕作放棄地再生楽交	福岡清爽クラブ 株式会社SRC	福岡清爽クラブ

楽農人遊休農地再生楽交の活動予定は<https://www.rakunoujin.com/>を確認下さい。

編集人：井 恵 補佐：井 啓充

- ◇NPO法人福岡実践人 福岡清爽クラブ
- ◇一般社団法人 実践人の家 福岡仁風読書会
- ◇NPO法人 楽農人 耕作放棄地再生支援楽交

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 《仁風庵》
 TEL 092-931-8155 (掃除) 931-8150 (読書) FAX 092-931-8120
 E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)
 kesa@rakunoujin.com (農業)



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。